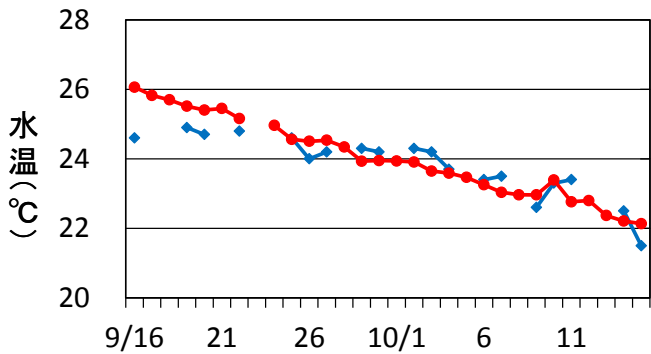




〔海の状況 (9/16~10/15) 〕

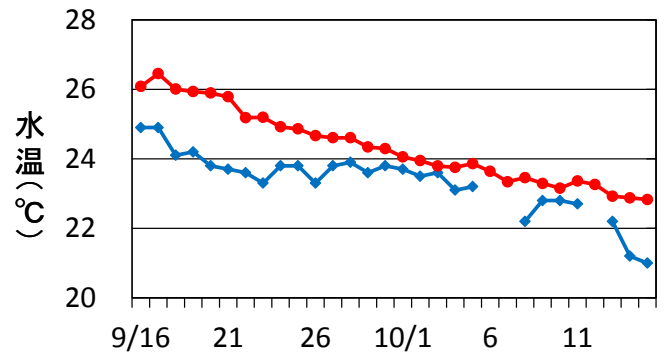
神子表面水温…期間を通して概ね平年並み (過去30年平均±0.5°C程度) で推移していた (図1)。

米ノ表面水温…9月中旬から下旬にかけては概ねはなほだ低め (過去15年平均より1.5~2.0°C程度低め) で推移していたが、10月に入るとはなほだ低め (過去15年平均より1.5~2.0°C程度低め) の日も見られたもの概ね平年並み (過去15年平均±0.5°C程度) で推移していた (図2)。



◆ 神子(本年) ● 神子平年(過去30年平均)

図1. 若狭町神子地先における表面水温の推移



◆ 米ノ(本年) ● 米ノ平年(過去15年平均)

図2. 越前町米ノ地先における表面水温の推移

100m深水温…2014年10月上旬の若狭湾周辺海域は15~16°C台の水温分布で、昨年同時期と同程度の水温分布となっていた (図3、4)。

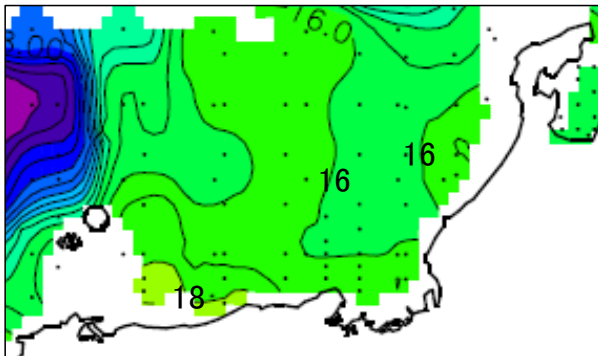


図3. 2014年10月上旬の100m深水温

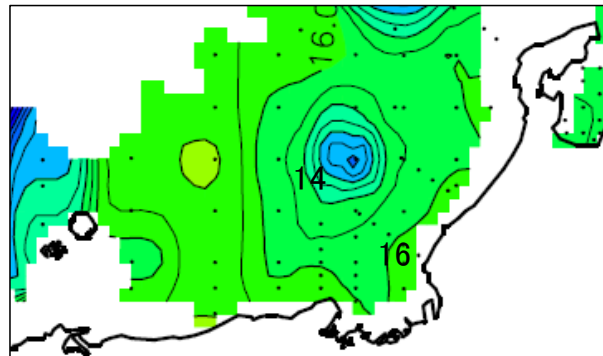


図4. 2013年10月上旬の100m深水温

(°C)

資料：日本海区水産研究所ホームページ発表の日本海漁場海況速報

平成25年度 第3回 日本海海況予報

(独)水産総合研究センターより、平成25年10~12月までの日本海海況予報が発表されましたので、その概要についてご紹介します。

- 山陰・若狭沖の冷水域の張り出しは、やや弱めで経過する。
- 対馬暖流域の表面水温は、平年並みで経過する。
- 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部および北部とも平年並みで経過する。

なお、詳しい内容は(独)水産総合研究センターのホームページ (<http://www.fra.affrc.go.jp/>) から閲覧することができます。

(宮田克士)

〔県内の漁模様：9月〕

2014年9月の県内の総漁獲量は1,131tで、昨年同月を322t下回った。

定置網

漁獲量は731tで、サバ類、ブリ（ワラサ・ハマチ・ツバス・アオコ銘柄）、サワラ等の魚種を中心に前年同月を357t下回った。一方、カジキ、シイラ、カマス等は前年同月を上回った。

底びき網

漁獲量は324tで、アカガレイを中心に前年同月を37t上回った。一方、キス類、タコ類等は前年同月を下回った。

釣り・その他

漁獲量は75tで、概ね前年同月並みの漁獲量であった。スルメイカ、タコ類等は前年同月を上回り、ケンサキイカ、ソデイカ等は前年同月を下回った。

(単位：kg)

定置網			
魚種	2014年	2013年	04-13平均
カタクチイワシ	2,635	5,486	5,849
アジ類	33,249	33,771	62,832
サバ類	6,439	33,186	13,949
マグロ類	1,753	568	2,192
カジキ類	15,014	4,279	11,786
カツオ類	1,344	2,469	2,499
ブリ	119,781	224,611	135,136
(ブリ)	31	15	80
(ワラサ)	342	1,324	10,085
(ハマチ)	24,595	40,267	10,414
(ツバス)	64,722	148,077	96,422
(アオコ)	30,091	34,927	18,135
ヒラマサ	1,120	38,227	12,000
シイラ	77,004	66,953	76,618
サワラ	382,464	571,400	286,698
マダイ	1,513	1,273	2,145
スズキ	2,234	1,508	1,770
ヒラメ	202	117	287
カマス	53,893	36,844	14,311
フグ類	2,255	14,762	8,941
アオリイカ	6,229	16,696	8,458
ケンサキイカ	2,913	5,344	6,305
合計	731,274	1,088,588	670,615

底びき網			
魚種	2014年	2013年	04-13平均
マダイ	1,049	1,902	1,923
キダイ	11,401	10,349	12,646
アマダイ	1,177	576	1,289
アカガレイ	116,553	89,810	79,312
その他カレイ	38,891	34,488	48,629

底びき網のつづき			
魚種	2014年	2013年	04-13平均
アナゴ	5,270	4,959	3,890
ハタハタ	1,196	1,153	2,593
メバル類	1,098	1,422	1,204
キス類	10,368	11,804	13,612
ケンサキイカ	696	2,260	2,248
ヤリイカ	3,178	781	862
タコ類	4,767	6,729	8,362
アカエビ	57,666	47,492	58,690
その他エビ	7,026	4,471	5,006
合計	324,436	287,632	317,343

釣り、延縄、さし網、その他の漁法			
魚種	2014年	2013年	04-13平均
アジ類	530	556	790
マダイ	2,788	2,188	3,061
キダイ	6,683	6,041	6,959
アマダイ	4,123	3,167	4,995
メバル類	4,162	3,305	3,051
スルメイカ	17,655	423	4,231
アオリイカ	925	2,286	2,342
ケンサキイカ	457	8,649	7,563
ソデイカ	4,098	17,897	10,801
タコ類	6,735	2,127	4,352
合計	74,845	76,287	80,604

総計	2014年	2013年	04-13平均
	1,130,555	1,452,506	1,068,562

※()は銘柄
 ※その他カレイはアカガレイ以外のカレイ類
 ※その他エビはアカエビ以外のエビ類

〔近隣府県の漁模様〕

(漁獲状況……石川県；9月の定置網の1日あたりの漁獲量。京都府；9月のJF京都漁連舞鶴地方卸売市場へ水揚げされた定置網の1日あたりの漁獲量。兵庫県；9月中旬～10月上旬の余部定置網の1日あたりの漁獲量。鳥取県；9月中旬～10月上旬のまき網の1統あたりの漁獲量。)

石川県……定置網……ブリ（フクラギ銘柄）6.3t、ブリ（ガンド銘柄）1.7t、サワラ・サゴシ 5.5t、カマス1.5t、シイラ1.1t、マアジ1.0t、サバ類0.8t。
 京都府……定置網……アカカマス6.9t、サワラ・サゴシ・ヤナギ5.6t、シイラ4.6t、カタクチイワシ1.6t、ブリ（ツバス・アオコ銘柄）1.5t。
 兵庫県……定置網……アジ94kg、カマス39kg、ブリ（ツバス銘柄）30kg。
 鳥取県……まき網……マアジ33.9t、ブリ類4.9t、マサバ3.2t、ウルメイワシ0.5t、カタクチイワシ0.4t。

(宮田克士)

ハタ類の養殖について

水産試験場では、今年からハタ類の種苗生産、養殖に関する研究に取り組みます。対象は、マハタ、クエ等の大型に成長する高級ハタで、これらは今後の新たな養殖魚種として期待されています。マハタ、クエは暖海性の魚であり、冬の低水温に弱いことから、福井の海での養殖は難しいとされていますが、福井の海にも少ないですがマハタやクエが生息しています。この福井の海に生息している魚は低水温に強い魚と考えられますので、地元の魚を親にまで育てて卵を取り、育てることで、福井の海でも安定した養殖生産することが可能になると期待されます。

これらハタ類から卵を取るには、5才以上（4kg以上）の大きな魚が必要となりますが、現在はそのような大きな魚を持ち合わせていないため、まずは親の確保をしなければなりません。今年は天然魚の購入を進めると共に、他県から卵を入手して種苗生産試験を実施しています。

1回目の種苗生産試験では、マハタとクエの生産試験を行いました。残念ながらマハタ3尾とクエ1尾の生産にとどまりました。マハタ、クエは卵から孵化したばかりの魚のサイズは2mm余りと非常に小さく、フグやマダイと比べても1mmほど小さい大きさです。体も非常に弱く、水槽の壁にぶつくと潰れて死んでしまいます。そこで、通気や水の流れにも非常に気を使う必要があります。そして、配合飼料への餌付けも難しく、タイミングが少し遅れると食べずに死んでしまうことも分かりました。

幸運にも2回目の卵（マハタの卵）を入手できたので、細心の注意を払いながら改めて生産試験を実施しました。先日（10月7日）に計数を行ったところ、350尾が生残していました。全長を測定したところ約110mmにまで成長しており、思ったよりも成長が早いと感じました。

これらの魚は、この後も水産試験場の水槽でできるだけ大きく育てた後、来年の春に生簀に移して養殖試験に使用する予定です。

また、前述のとおり、現在地元の天然魚を集めています（買います）。まずはマハタ中心の種苗生産試験を行いたいので、マハタの天然魚が獲れたら試験場にまで一報ください。生簀にはこれまで購入した天然の1才魚が約100尾いますが、まだ1kg以上の大きな魚がいません。ぜひ大きな魚を購入したいと思っていますのでよろしくお願い致します。



マハタ



クエ



水槽で飼育中のマハタ稚魚



生簀で飼育中の天然マハタ

(畑中宏之)

「越前がに」の資源状況について

今年も、11月6日に「越前がに」漁が解禁されます。水産試験場で実施したトロール調査結果を基に、本県沖合のズワイガニ資源量を推定しましたので、お知らせします。

漁獲動向：

福井県底曳網漁業協会の集計による漁獲量の経年変化は、最低であった S54 年度以降は増加傾向にあり、近年は 500t 前後で推移しています。H25 年度は、資源保護の取組みにより漁期が短縮された影響で、水揚げが前年度より 100 トンほど減少しました（図 1）。

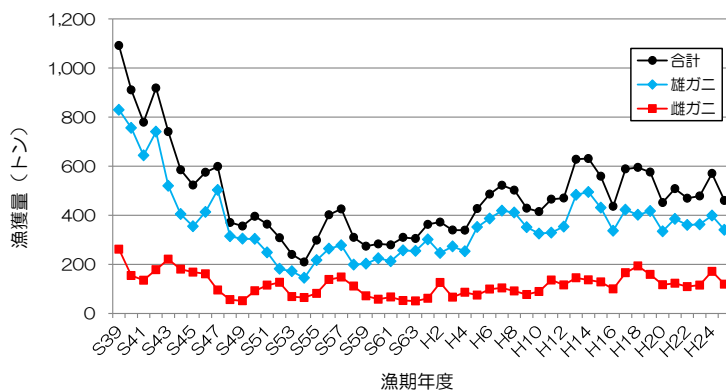


図 1 ズワイガニ漁獲量の経年変化

資源状況：

今年の漁獲の中心になる雄の 12 齢は、前後の年級群より資源水準が低く、「裏作」の年回りに当たります。また、H23 年の調査で確認された当時 8 齢の卓越年級群（他の年に比べて加入量が特に多い年齢）が今年から漁獲対象となりますが、加入は少ない見込みです。

また、雌についても、今年加入する年級群が少なく、昨年を取り残しも少ない見込みです。

来年以降に漁獲対象となる 9 齢、10 齢の年級群は、雄雌ともに豊度が十分あることから、安定した漁獲が期待されます（図 2）。

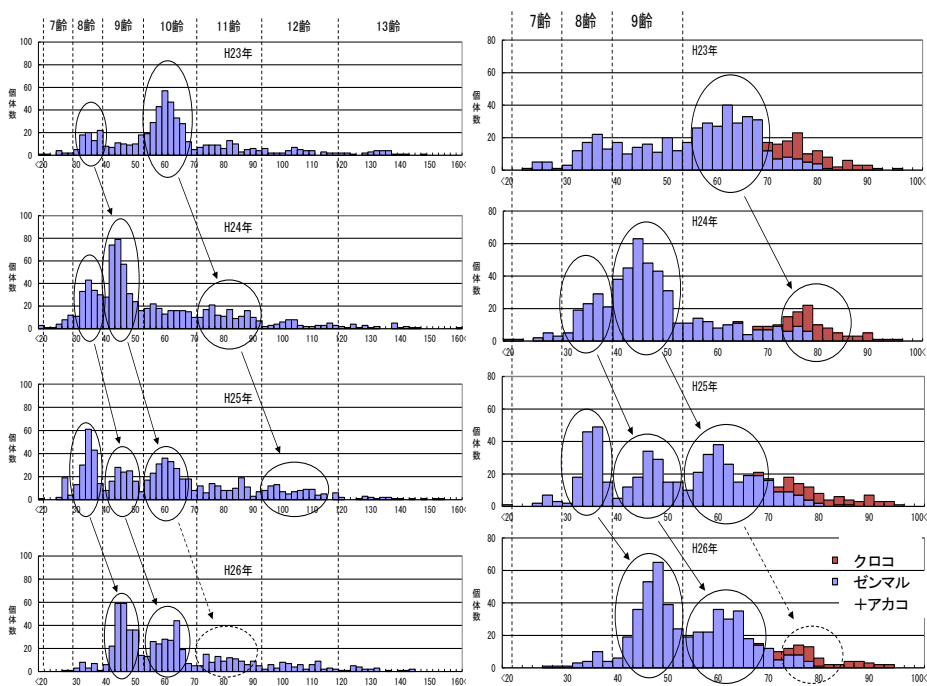


図 2 福井丸トロール調査で採集したズワイガニの甲幅組成（左：オス、右：メス）

漁模様：

今漁期は、水ガニの漁期が昨年よりもさらに 10 日間短縮されるため、雄の漁獲量は昨年をやや下回ることが予想されます。

また、雌の漁獲量は、昨年並み～やや下回ることが見込まれます。

（河野展久）